

## CAD/CAM を活用した最新のデジタル審美補綴修復物の現状

～CAD/CAM 冠、ジルコニアクラウンを成功に導くキーポイント～

近年、患者様の審美的要求ならびに金属アレルギーに対する対応策も高まり、可能な限り口腔から金属色や金属自体を無くし、各種オールセラミックを中心としたメタルフリーの修復方法へと高い関心を集められています。

そのような中、海外のみならず国内においても CAD/CAM システムは急速に普及しており、クラウンやインプラント上部構造体を製作する症例報告も増えています。また、ハイブリッドレジンプロックを活用した CAD/CAM 冠の保険適用によって、CAD/CAM 冠を活用した補綴物は今後もさらに加速することが予想されます。

その中でも生体親和性が高く、高強度のジルコニア系材料が適合精度にも安定して製作できるようになり、近年非常に注目を集めています。インプラント上部構造体への使用は元より、カスタムアバットメントの製作においてもジルコニアが使われるようになっていきます。

今回の講演では、ハイブリッドレジンを活用した CAD/CAM 冠をはじめ、ジルコニア系材料を活用した物の紹介とともに、最新のオールセラミックスを中心としたデジタル技工の現状、術式、臨床応用についても説明させていただきます。

従来、技工士はワックス、埋没材、金属、ロー着と絶えず膨張・収縮する不安定な材料を駆使しながら補綴物を作製していましたが、最新の CAD/CAM システムを使用することによって、それらに影響されることなく、安心安全で安定した補綴物の提供ができるようになりました。今回の講演が先生方の明日からの臨床の一助となれば幸いです。

演者 吉次 範博

## 「CAD/CAMハイブリッドレジン冠 A to Z ～手続きから製作まで～」

平成 26 年 4 月新たに CAD/CAM によるハイブリッドレジン冠が保険導入されたことにより、カスタムメイドで歯科技工士により製作されていた補綴物から機械化による歯科技工士不在の補綴物製作に進むとの憶測も呼んでいます。現実には下記のような課題が浮き彫りになってきました。

- ・高価な装置導入は歯科技工所の 4 分の 3 が個人という業界では困難である
- ・装置所有施設と未所有施設の格差が生じる。特に対応困難な歯科技工所においては他の歯科技工所の参入を招き、経営戦略的に不利である。
- ・大手歯科技工所による大量受注・大量生産では、これまでの個々の症例に応じた歯科医師と歯科技工士の連携した匠の技による補綴物製作の再現が困難である
- ・発注に関する提出書類、指示書の不備が懸念される

しかし、平成 26 年 4 月 23 日付厚生労働省疑義解釈（その 4）において CAD/CAM 装置を所有していない歯科技工所もその作業工程の一部を担うことが可能となりました。具体的には平素お取引されている歯科医院からの CAD/CAM 冠受注があった場合 CAD/CAM 装置を所有している歯科技工所に加工を依頼するなどの連携が可能となりました。

今回講演の中で装置を所有していない技工所が CAD/CAM 冠に関わるための手続きと製作方法、装置を使用した作業工程など基本のお話をいたします。

演者 (一社) 広島県歯科技工士会 専務理事 松井 哲也